

論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: Lack of association between receiving ART treatment and parental psychological distress during pregnancy: Preliminary findings of the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル: 生殖補助医療による妊娠における精神的ストレス

ユニットセンター(UC)等名: 宮城UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Reproductive Biomedicine & Society Online 巻: 5 頁: 年: 2018 月: 4

筆頭著者名: 吉益 光一

所属UC名: 宮城UC

目的: 不妊治療を経験した夫婦は、妊娠前に精神的、身体的、経済的な負担を負う。一方、近年の社会環境の変化、生殖補助医療(ART)の普及と意識の変化などにより、ARTにより妊娠した夫婦のストレスについては明らかではない。本研究では、ART治療と精神的ストレスの関連性について検討することを目的とした。

方法: 一次固定データ(10,228組の夫婦)を使用し、ART群(母親:239名, 父親:151名)、非ART群(母親:350名, 父親:251名)、自然妊娠群(母親:8,514名, 父親:5,110名)の基本データと医学データを抽出し、妊娠初期、中後期の精神的ストレスについてKessler 6-item psychological distress scale (K6)を用いて比較解析した。

結果: ART治療群の母親のストレスは、他の2群と比較し低い傾向にあった。多変量解析の結果では、妊娠中から出産までのストレスとARTの関連性は認められなかった(a OR比: 0.79, 95% CI: 0.49-1.26)。ARTの父親にも同様の傾向が認められた。また、ART治療群でストレスとの関連が強く認められた母親は、本人の病歴と夫の侮辱的発言が影響していた。

考察:(研究の限界を含める) これまでの数多くの報告と異なり、ART治療を受けている夫婦に精神的ストレスはみられなかった。この理由として、我が国では晩婚化の社会情勢とART治療が普及し、不妊治療が広く受け入れられていることが考えられる。また、カウンセリングの充実も考えられる。さらに、ARTの安全性の評価も原因と考えられる。一方で、約10%のART治療を受けた母親は、先天性股関節脱臼などの身体的障害や夫の発言により妊娠中継続してストレスを感じていた。本研究の限界は、妊娠前のストレス状態が不明である点、ルールに妊娠中の合併症を解析することができなかった点、K6テストに関する報告が少ない点が挙げられる。

結論: ART治療を行い妊娠に至った場合、一般妊娠に比べ妊娠への不安は低い傾向にあるが、一部は不安が強く、引き続き心理面、社会面のケアの必要性が示唆された。また今後、出生後の児への愛着への影響も検討したい。